

「豊かな心」を育む道徳教育の充実

道徳教育の充実に向けて

- ★道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものである
例) 総合単元的な道徳学習
- ★指導に当たっては、児童生徒と教師の信頼関係や児童生徒相互の好ましい人間関係、温かい学級集団が基盤となる
- ★自己の生き方についての考えを深める指導の充実を図る
- ★豊かな体験(集団宿泊活動、ボランティア活動、自然体験活動など)を通して内面に根ざした道徳性の育成を図る
- ★基本的な生活習慣や社会生活上のきまり、基本的なモラルについての指導を充実する
- ★学校や学級環境の整備・充実を図り、望ましい雰囲気醸成する
- ★学校生活と家庭や地域での生活との関連に着眼し、相互の連携を図る

道徳の時間のねらい

各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、**道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する**

【「道徳的価値の自覚」を深めるポイント】

- ①道徳的価値について理解する(価値理解・人間理解・他者理解)
- ②自分とのかかわりで道徳的価値を捉える
- ③道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う

【「道徳的実践力」を育成するポイント】

※ 道徳的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力であり、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を言う

- ①道徳的実践の指導(日常生活での指導)は、道徳の時間で育てる内面的な道徳的実践力が基盤であり、それらが相互に響き合って、道徳性を高めていく
- ②道徳の時間では、即効性を求めるのではなく、年間を通して計画的に着実に道徳性が養われるようにする
- ③教師の一方的な押しつけや言葉・行動の指導にならないように留意する



各校では、校長の方針のもとに、道徳教育の推進を主に担当する教師(「道徳教育推進教師」)を中心に、全教職員が協力して道徳教育を展開します。



授業づくりのポイント

- ①子どもの実態等(発達段階や特性、社会的な要求課題)をふまえ、扱う内容項目(道徳的価値)を決定する
 - ②本時のねらいを明確にする(子どもたちにどのような心を育てるかを自分の言葉で!)
 - ③ねらいを達成する上で、最も適切な資料を選択する
 - ④中心人物の行為や発言(主張)に沿って、中心発問や基本発問・補助発問を考える
 - 読み取り発問＝行為に沿って事実を確かめる
 - 掘り起こし発問＝行為の奥にあるものを掘り起こす
 - ◎「ゆさぶり発問」＝行為に対する子どもの価値選択について問いかける(概念くだき)
- ※ 話し合いを大切にし、子どもたちが道徳的価値を捉えねらいに迫るよう、発言やつぶやきをしっかり受け止め、立ち止まり、広げたり、さらに深く問いかけたりする
- ⑤板書を効果的に活用する
 - ・集中させる
 - ・情報を提供、理解させる
 - ・情報を整理する
 - ・大事なことを強調する
 - ・一連の学習を補強する
 - ⑥導入と終末を工夫する
 - 導入では、「課題意識をもたせる」&「資料に向き合わせる」(学習意欲の喚起)ことが大切
 - 終末では、「学んだ内容を強く印象づける」&「自己を振り返り意欲化を図る」ことが大切



道徳の時間を核として、体験活動と関連させたり、家庭や地域社会との連携を図ったりすることでその効果は増大します。あいさつ運動やボランティア活動等を取り入れた総合単元的な道徳学習の実践、ゲストティーチャーの活用など。